

NPO 法人 エムジョイ

ヒアリング実施日時:2018年2月21日(水) 13:00-14:30

ヒアリング実施者:大阪産業大学 佐藤真治

ヒアリング対象者:クラブマネージャー 関口健

施設住所:〒027-0044 岩手県宮古市上鼻町二丁目3番28号

1. 施設の概要

2014年9月岩手県宮古市に開設した総合型地域スポーツクラブ。東北被災地で、地域住民が中心となり、人々の健康を守り、心の病を防ぎ、心身の健康促進を地域に広めるため、スポーツの普及・育成・競技力・指導力の向上に関する事業を行い、地域の復興に貢献することを目的としている。

【ヒアリング結果】

- ① 施設のタイプはどのタイプですか 総合型地域スポーツクラブ
- ② 会員(登録者)数は何人くらいですか 200人程度
- ③ 利用者の年齢構成は 20歳未満(40%)、20-50代(20%)、60歳以上(40%)

2. 体力測定について

【ヒアリング結果】

- ① 身長、体重、皮脂厚などの測定を実施していますか 実施していない
- ② 身長、体重、皮脂厚などの測定の実施頻度はどのくらいですか 実施していない
- ③ 全身持久力測定を実施していますか 実施していない
- ④ 全身持久力測定の実施頻度はどのくらいですか 実施していない
- ⑤ その他の体力測定を実施していますか 実施していない
- ⑥ その他の体力測定の実施頻度はどのくらいですか 実施していない
- ⑦ 指定運動療法施設ですか いいえ

3. 運動プログラムについて

【ヒアリング結果】

- ① 施設として運動プログラムを作成・提供していますか ない
- ② 運動プログラム作成の根拠としているガイドラインなどがあればお教えてください ない
- ③ 個人別に運動プログラムを作成・提供していますか ない
- ④ 個人別の運動プログラム作成の根拠としている資料は? ない
- ⑤ 安全対策のマニュアルはありますか ない
- ⑥ 事故が発生した時のための訓練は実施していますか ない
- ⑦ 監視型運動プログラムを実施していますか ない
- ⑧ プログラム毎のエネルギー消費量や強度などの情報や効果を明示していますか? ない
- ⑨ 処方箋や運動指導記録を保存していますか ない
- ⑩ 処方箋や運動指導記録はどのような方法で保存していますか ない
- ⑪ 傷害や事故の記録を保存していますか ない
- ⑫ 傷害や事故の記録はどのような方法で保存していますか ない
- ⑬ プログラムの効果について健診結果等を用いて評価していますか ない
- ⑭ プログラムの評価をプログラムの改善等に活用していますか ない
- ⑮ プログラムの評価に関する記録を保存していますか ない
- ⑯ プログラムの評価の記録はどのような方法で保存していますか ない

健康増進施設の見学および職員へのヒアリング・意見交換②

4. 運動型健康増進施設認定制度の課題に関する質問

【ヒアリング結果】

- ① 運動型健康増進施設として十分に活動できていると感じますか わからない
- ② 運動型健康増進施設認定制度は「国民の健康づくりの推進」に貢献できていると感じますか わからない
- ③ 運動型健康増進施設を運営するにあたっての課題はどのようなものですか わからない

5. 施設の社会貢献や学術貢献に関する質問

【ヒアリング結果】

- ① 自治体や企業との連携事業を行っていますか 自治体：5件/年、企業：16件/年
- ② 自治体や企業との連携事業を行っている場合は、その概要をお教えてください 被災地復興事業として、主に児童を対象にサマーキャンプやバスツアーを企画・運営している。また、最近になって自治体や社会福祉法人と協働して高齢者の運動コミュニティ運営や巡回運動指導をおこなっている。
- ③ 施設のどなたかが日本健康運動指導士会や都道府県の支部の役員や事務局として会の運営をサポートしていますか 全くサポートしていない
- ④ 施設の常勤スタッフのどなたかが日本健康運動指導士会や都道府県の支部以外の「国民の健康づくりの推進」に関連のある組織や団体の役員や事務局として組織や団体の運営をサポートしていますか 全くサポートしていない
- ⑤ 施設のどなたかが学会発表や論文発表など、学術的な活動に参加していますか 今後する予定
- ⑥ 学術的な活動として、外部の研究機関との連携やデータの提供をしていますか 今後したい

6. 健康増進施設に関する課題や希望

- ・被災地復興には地域によって温度差がある。
- ・被災地では日々に健康づくりの機会が失われつつあり、被災直後より深刻度は増している。
- ・なかでも、仮設住宅から災害住宅に移った人の孤独死や抑うつ、認知症対策が遅れている。
- ・以上の課題については、被災地域における医療と運動施設の融合が必要。厚生労働省には、それを主導してほしい。
- ・地域の健康づくりには時間がかかる。継続性を担保するために、次世代にどのようにバトンをつなぐのか？という視点も重要では。

7. 所感

東北被災地で、地域の健康づくりに奮闘する施設をヒアリングした。被災地で進行していることは他人事ではない。人口減少や超高齢化によって進行する孤独死や抑うつ、認知症の問題は日本各地の未来予想図であろう。そこで試みられていたことはコミュニティの熟成と多世代交流であり、期待されていることは医療との連携であった。今後の健康増進施設の方向性を考える上で重要な示唆をいただいたと思う。

